

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'97
夏季

号【7、8月合併号】

大反響！
小誌スタッフ応募者への
テスト問題とそのネライ



いまを話す

川崎市長 高橋 清 さん
子供のいじめ、不登校、援助交際は
恥辱忘れた大人社会が病根

Stage Up 夏季 号もくじ/1997年

■ほんねインタビュー いまを話す

六年ぶり 高橋 清 市長登場

名誉も恥辱も忘れた大人社会が

「いじめ、援助交際の病根」

■はりきってます グループ紹介

心も口も開き、気分は最高

三田小PTAコーラスクラブ (多摩区)

若壮年に「高齢体験」させる

WAC川崎アカデミー会 (高津区)

●学習・文化情報

◇ゆりがおか児童合唱団定期演奏会

◇初めてふれるパソコン講座I

◇瀬崎竜彦・心画展

□読者の声/ミニニュース/編集後記

裏表紙

◇表紙絵……中原平和公園「はだしの広場」——杉本繁さん

(小誌は再生紙を使用しています)

15 14 13 12

10

4

大相撲川崎場所

7月30日(水) 川崎市とどろきアリーナ

(JR武蔵中原駅から徒歩15分、小杉駅からバス)

■開場 8時 ■打ち出し(終了予定)15時

- 料金 ●マス席 44,000円 (4人分)、11,000円(1人分)
 ●イスA席 6,000円 ●イスB席 4,000円
 ●イスC席(大人) 2,000円 (子供) 500円

- チケット販売 ●☎ (541) 2191の大相撲川崎場所事務局
 ●☎ (798) 5000の市とどろきアリーナ
 ●☎ (200) 3255の市体育館ほか

- 問い合わせ ●☎ (541) 2191の大相撲川崎場所事務局
 (幸スポーツセンター内)

- 主催 (財)日本相撲協会 ■共催 (財)川崎市体育協会
 ■後援 川崎市、川崎市教委、当事業団ほか

いまを話す

ゲスト

川崎市長
高橋 清さん

Vol. 56



名誉も恥辱も忘れた大人社会が いじめ、援助交際の病根

豊かな日本の子供たちが、いじめ・不登校・援助交際などの呪縛しじまにかかっている。「衣食足りて榮辱を知る」(管子)どころか、名誉も恥辱も忘れたのか。高橋清・川崎市長は「子供は大人社会の鏡」と大人へ自省と努力を促す。六年前、市長は小誌で「子が伸びぬのは教師の責任」「会社人間にわが子の教育はムリ」と発言、「政治家として正直すぎる」との批判?もあつた。だが昨年、中教審が、市長の主張と同じ認識を示したこともあり、多くの読者から「再掲載」の希望があり、四月二十八日、椎野和枝さんがインタビューした。市長は防災対策、ごみ問題、総ヘルパー運動と高齢社会、女性職員の幹部登用などについても率直、明快に話した。

——今日はご多忙の中、お時間を割いていただきましてありがとうございます。私は一市民です。で、市長さんとは直接、接点がありませんでしたので、今日は楽しみにして参りました。

高橋さん ようこそおいで下さいました。

——私、市長さんがお話になったり、お書きになった「ステージ・アップ」の「ほんねインタビュー」いまを話す」と、随想「思いつくまま」を読ませていただいた時、大変心を動かされました……。

特にあの時の「いまを話す」は、大変刺激的な見出しで「子が伸びぬのは教師の責任」「会社人間にわが子の教育はムリ」という文字が目飛び込んで、一気に読みました。そして「こんなに教育のことが分かっている人がいる」と興奮を覚えました。

高橋さん そうでしたか。私は教師の経験がありますので「自分だったらこうありたい、こうやりたい」という思いでした。

——前回のインタビューから六年。いかがでしょうか。子供たちを取り巻く社会環境がますます悪くなり、陰湿ないじめや不登校の問題も深刻になっていますが。

高橋さん 子供は、大人社会の鏡だと思いますね。大人が反省し変わらなければ、どれだけ子供に「こうあるべきだ」とか「こうしなさい」と言っても無理でしょうね。家庭で、親がバラエティー番組を見ながら、子供に「勉強しなさい。本を読みなさい」といっても駄目なのです。子供と一緒に本を読む時間を共有できるように雰囲気はまずは家庭でつくるべきでしょう。家庭と学校、社会のバランスの良い環境で子供たちが育つ

親子が共有できる時間を 家庭 子供の生き方に踏み込め 教師

ていくのが望ましいですね。

——その大人たちが忙しすぎて「しつけ喪失時代」といわれてますか……。

高橋さん 私はあまり悲観していません。阪神淡路大震災の時に茶髪の若者、大学生が大勢ボランティアで活躍しました。若い



人には、いざという時に率先して動くエネルギーがある、と考えているんですね。ですから、私たちはそのエネルギーをいろいろな場面

面で活用できる環境をつくる必要があると思います。障害をもった子供たちへの教育は、愛情と規律と科学的な仕組みとの組み合わせで、昔とは比較にならないほど充実してきています。その一方で、一般の子供たちに対しては、手抜きとはいませんが、あまり好ましくない風潮のほうに流されていくようにですね。

——大人たちの姿勢が問われているのですが、「援助交際」が新聞で特集が組まれる状況を見ますと心が痛みます。

高橋さん 教師がもっと身を乗り出すべきでしょうね。かつては、作文を書かせますと、子供たちは家のことを正直に書きました。両親や兄弟のこと、何でも書きますから、作文から子供たちの生活が

見えます。それを読んで教師は、

それぞれの子供たちに意見、感想を書き添えました。先生は、作文を家を持って帰って書いたり、家庭訪問をして両親と話し合うので大変ですが、生活指導ができるんですね。つまり、学習指導だけではなく、その子の生き方に踏み込んだ教育ができていたと思います。——昨年の中教審の答申を読みますと、六年前に「いまを話す」



で高橋市長がお話になったことそのもので驚きました。たとえば、小学校では基礎を繰り返し教える。高校教育は、多様な能力を開化する場ではなくてはいけないとか。

高橋さん 私は常々、小学校は児童の体を丈夫にして、基礎学力をしっかりと定着させる場だと思ってきました。重い負担をかけないで、子供たちの適格を見極めることが教師に必要なんです。

高橋 清さん

たかはし・きよし=大正14年、宮城県生まれ。昭和19年、宮城師範学校本科卒。同年から国民学校・小学校教諭。42年、川崎市立古市場小教頭。43年から川崎市教委指導主事や教職員部長、同市職員局長、同助役を歴任。平成元年11月、川崎市長に初当選。同5年、川崎市長に再選。尊敬する人は夏目漱石。趣味は読書、旅行。家族は妻玲子さん。長男（東大教授）、二男（日銀勤務）は独立。自宅は幸区小倉。

——前回のインタビューで「登校拒否の子供たちが自発的に学校に復帰できるよう、新しい発想の学校を計画しています」と述べられていましたね。その計画はどうなつたのでしょうか。

高橋さん そういう学校を麻生区につくりたいという希望は捨てていません。畑を耕し、犬や猫、ヤギとかウサギのような小動物を飼い、先生方と寝食をともにして子供たちが本来持っている姿を取り戻し、元の学校に帰れたらいいわけですね。そういう学校が必要だという信念は変わっていません。

教師のひとり 集団の知恵で解決を



なにか問題があるのですか。
高橋さん 「そういう学校をつくるのが差別」と反対する人もいるんです。「いじめのない学校にすることが大事」という意見に私も賛成です。でも、現実、そ

うはなっています。いじめの原因はとても複雑なのです。川崎からある地方の不登校児を受け入れる学校に行つて、そこから元気になるまで戻ってきているという事例がたくさんあります。また、百合丘での試みも成果をあげています。学校の体質改善と同時に今困っている不登校児のために手を差しのべたいと思います。

——自分の子供が学校に行かない親の悩みは、端で見ているより深刻です。
高橋さん そうでしょうね。悩んでいる子供たち、親たちが明るさを取り戻す姿を見てもえれば、反対している方々の理解も得られるでしょうから、頑張りますよ。

——さて、先生方も最近には相当疲れていると言われます。リタイアする先生も増えていますが、その原因はどこにあるのでしょうか。これまでの学校のシステムが時代にマッチしなくなったとの指摘もありますか。
高橋さん 私は、あまり制度にとらわれないほうがいいと思うんです。義務教育には指導要領というのがある、それが基準にはなっていますけれど、それを運用するのは先生方です。先生方が知恵を出し合つて、全国一斉というのは、その学校で一番いい運用の仕

方を工夫すべきだと思っています。そして、PTAの協力も得て実践した結果、子供たちが生き生きとして学校に行くという状況があれば、それは成功だと思っています。
——やはり、家庭の協力が不可欠ですね。子供たちは家庭で親の姿を見て育つのですから。
高橋さん それから、先生は子供の実態をよくつかんでいないのだめですね。昔は、先生が子供とよく一緒に遊びましたから、子供たちのことが良く分かりました。子供の世界には子供たちが作り出す関係がありまして、先生と打ち解けた関係があると、いざという時の判断も的確にできるのです。

——先生が子供のいじめや非行に早く気付くことが大切ということですね。そのためには、先生方にゆとりがほしいですね。
高橋さん いまの先生方は、熱心だし能力がありすぎるんだと思



椎野 和枝さん
しいの・かずえ=1934年、京都市生まれ。同志社教育、毛利菊枝演劇研究所卒、NHK婦人学級世話人、広島女性史研究会を経て80年から川崎に住み「女性の学習情報をつなぐ会」、東洋大学特別研究会「21世紀の女性」、川崎「ぶらすI」に所属。共著は「山陽路の女たち」「テキスト現代女性読本」。麻生区白山在住。

います。だから疲れちゃうんです。私は能力がなかったのに、教えられることしか教えなかった。昔の先生は、それぞれが特色を持っていました。「あの先生はこういうことが得意だ」とか、「この先生のお陰で体育が得意になった」というように。逆にいうと、それしか教えられなかった(笑う)。自分の不得手なことは、ほかの先生に頼む生活の知恵で切り抜けていました。でも、いまの先生方は、試験で優秀な成績だった人たちですから、自分一人で背負い込むんだと思います。

——優秀であるがゆえに、オルマイティイの人間と思ひ込みやすい？
高橋さん 私は、子供が本当に好きで、ある程度の能力があれば教師は務まると思っています。優

生涯学習、共生は三島の伝統 子供嫌いの教師はダメ!

高橋さん 頭のいい人順の採用をやめて、面接を重視して体が丈夫で頭は中位でいいと思いますよ。大部分の子供の気持ち分かる、できない子供の気持ち分からない



秀だけれど、子供があまり好きではないという人が先生になることが一番不幸ですよ。子供が好きで好きでしようがないという人が教師になるべきです。そういう人は子供を大事にするし、子供の中に飛び込んで行って、共に生きがいを感じる事ができるんです。

——義務感でなく、好きなことをしていると疲れを感じない。先生の大切な条件だと思います。

くでは、先生は務まりません。それは市長も同じです(全員爆笑)。

——話は変わりますが、国際化・情報化・高齢化社会のなかで、市民が地域で熱心に学習し、市民館の企画に多くの人たちが参加しています。「かわさき市民アカデミー」の生みの親であり、学長の市長さんの生涯学習のご感想は。

高橋さん 生涯学習が川崎で活発なのは必然性があるのです。戦後、日本全体が貧しかったころ、川崎は工業都市ですから、全国各地から集団就職の若者がたくさん来ました。各企業でその人々を教育し、行政もいち早く成人学校を開設しました。つまり、社会教育の先駆的な取り組みがこの川崎で盛んに行われ、川崎市全体の青年の教育が大事にされてきました。その中には、行政と企業とがタイアップして聞いた講座もあります。

——若者の社会教育から始まって、生涯学習へ発展したと。



高橋さん 戦後すぐは若い人の社会教育でしたが、いまは「人生八十年時代」です。定年を迎えた人々も学習意欲がおう盛です。今春、教育委員会の社会教育課を生涯学習課に改めたのもそのような背景からです。

——いま、「定年を迎えた人々ちも」とおっしゃいましたが、私は市民館で講座を受け、そこで出会った仲間と自主グループを作り、活動を続けていますが、年代は若い人から私くらいまでの異世代が集まっています。学習を続けるうちに、それぞれが課題をみつけ、市民アカデミーのコースで学習を続けるケースが増えていきます。

高橋さん それはいいお話ですね。暦の年令に左右されずに、若い人も中高年も一緒に学んでいるという事は、生涯学習の目的の一つの地域社会の活性化・連帯そ

のものです。生涯学習環境をもつと整えなければと思いました。

——ところで、ここ数年の高橋市政についてお伺い致します。オンブズマンをはじめ、新しい施策を次々と打ち出され「市職員採用試験の国籍条項の撤廃」を表明されました。その後、自治大臣が「一般職への外国人の採用については自治体の裁量にゆだねる」という方針を表明しています。「外国人市民代表者会議」も発足しましたが、その意義についてお話しただけですか。

高橋さん 川崎市は、もともとは五万人ほどの人口でしたが、全国各地から働く場を求め、多くの人が集まってきました。ですから「共生」「共に生きるまち」という伝統があるのです。外国人の方が入っていらしても、違和感が少ないのです。「国籍条項の撤廃」は、地方によっては反発もありますが、川崎では大勢の方が理解をしてくださったと思います。「外国人市民代表者会議」はフランクリンフルト(ドイツ)の試みをモデルにしました。実際にやってみると難しいんですが、それを乗り越えていかなければなりません。市の条



例で定めたのは川崎市が初めてです。私、最初の会議に出席して感心しました。それは、今までは要求、要請に終始していましたが、「この会議での発言をきちっと取り上げてもらえるならば、私たちも一市民として、まちづくりに参加したい」「要求だけするのはやめて、私たちに出来ることをやって、一緒にまちづくりをしていきましょう」という意見です。私はこうなったら本物だと思いました。

——外国人市民と行政との信頼関係ですね。テーマがガラッと変わります。今年に入って各地で地震が多発しています。阪神・淡路大震災を教訓に、自衛隊への派遣要請とか、中学校五十一校を地域防災拠点と位置付けるなど、地域防災計画を見直しましたが。

高橋さん 地震は、予知も大事ですが、それを止めることはでき

ません。大地震が発生したとき、問題はいかに最小限の被害で食い止めるかです。そのためには、地震発生の中と直後に、いかに詳細な被害状況を把握できるかです。川崎市の第三庁舎に設置してある「震災対策支援システム」は世界的にも優れたシステムです。しかし、大震災でこのシステムが機能しないことも考慮して、多摩区の総合庁舎内にも震災対策支援システムを設け、万全の態勢で臨める

ような準備をしています。——臨海部の市民の不安は、京浜コンビナート地帯ですが。

高橋さん 京浜工業地帯の中核ト地区の指揮権は、法律上は知事が持つていて、現地本部長が市長です。知事と連絡がつくまでの間は、現地本部長が指揮を執ることになりました。コンビナートの各企業の連絡協議会が防災計画を立て、訓練も怠ることなくやってい

陸・海の地震対策は万全 被害を 小さく 2カ所に優れたシステム

ます。また、川崎港は耐震性の岸壁を完成させました。万一、大震災があっても、船で救出したり、支援物資を送ってもらうことができます。

——阪神・淡路大震災の教訓を生かされているようで、心丈夫に思います。次にごみ問題についてお伺い致します。流れとしては、資源になるものは生かして、という方向にあります。税金でペットボトルなどの企業のごみの

後始末をするのは問題ではないかという指摘も出ております。東京から越して来た友達は「川崎は毎日収集なので、市民がごみを平気

で出している感じがする」と言っています。

高橋さん 川崎市は工業都市として「産業廃棄物、ごみの問題、それと水の問題については市民に不自由はかけない」ということで工場誘致をしてきた経緯があります。ですから、産業廃棄物、家庭のごみは川崎市で処理できますというところで、やってきたわけです。ご指摘の通り、時代が変わり、大量のごみの処理ができなくなってきました。埋め立て地にも限界が見え始めています。五年ぐらい前に、非常事態宣言を出しましたところ、皆さんの協力で、ごみの量は減っています。生ごみも肥料に変えて使う方法を実践しているEM運動などをみておりますと、最終的にはごみをゼロにできるのではないかと思っています。ごみの分別をちゃんとしてますと、全部再利用が可能です。最終目標をそこにおいています。

——北部地域から出る廃棄物を全国で初めて鉄道輸送にするなど先進的のごみ施策も進めています。知られていないように思います。

高橋さん 鉄道輸送の現場を一度見ていただきたい。走っている



ほんねインタビュー

のは夜ですが、きれいなコンテナ
 であってもごみ輸送とは思えません
 が、あれは、麻生区と多摩区のご
 みを運んでいるんです。

——クルマの窒素酸化物が公害
 の元凶。もつと鉄道を利用すると
 いいですね。

高橋さん そのごみは臨海部の
 浮島に運ばれ電気になって、東京
 電力にも売っているんです。余熱
 利用のプールもありますし、ごみ



が資源になっています。

—— 一昨年十月に「市民総ヘル
 パー大作戦」がスタートしました。
 高齢化社会が進む中、時宜を得た
 施策と思いますが、寝たきりの介
 護を、今までのように女性だけが
 担う時代ではありません。男性の
 意識を高めて参加を促すべきです
 が、市職員のボランティア休暇を
 制度化して「地域でも頼りになる
 川崎市職員」をアピールする必要

があるのではないのでしょうか。

高橋さん 本当にそうですね。

市職員も研修を受ける人が増えて
 きていますので、地域参加ができ
 ると思います。また、介護という

のは知識と技術が伴っていないと
 いけませんので、九月ごろを目途
 に「川崎市福祉公社」（仮称）と

いう外郭団体をつくります。これ
 は、ヘルパーさん専門の第三セク
 ター方式です。市民にヘルパー登
 録をしていただく一方、ヘルパー

養成もします。そして、各家庭の
 要望に応じて、ヘルパーさんを派
 遣します。養成した人にどう働い

てもらおうかは専門にコーディネー
 トしまして、在宅福祉の充実をす
 すめていきたいわけです。

——福祉公社がスタートします
 と、市民は二十四時間、利用が可
 能になるのですか。

高橋さん そうですね。施設にい
 らっしゃる場合はいいですけれど
 在宅の場合、二十四時間の巡回型
 でなくては意味がないんです。す
 でに、二万人ぐらいの小さな町で



は実行しているところがあります。
 川崎のような大都市では、いっぺ
 んにするのは大変です。やれると

ころから始めます。高齢者の多く
 は、施設より自分の家で家族とい
 緒に住みたいという希望を持って
 いらつしやいますが「家族に迷惑

をかける」ことが気掛かりなんで
 す。家族の負担を軽くすることで、
 余裕のある介護を受けていただけ

るようにしたいとの考えです。
 それと、「老人いこいの家」の活
 用です。いこいの家は、中学校区

に一カ所あり、いまは元気なお年
 寄りが中心になって、いろいろと
 楽しんでいますが、ヘルパーさん
 を配置して、デイサービスも可能
 になると思います。川崎では遠慮

なく年を取っていただけですよ。

—— ありがとうございます。と

ころで、今春の人事異動で、初め
 て女性局長（飯村富子市民局長）
 が誕生しました。女性にとつて、

うれしいニュースでした。これか
 らも、女性を幹部職員に登用され
 ることを期待しております。政策

決定の場にも大いに進出してほし
 いものです。

高橋さん まだ、北欧のよう
 はいきませんけれど、審議会では、
 三〇%が女性という目標でやって
 います。すでに二〇%までにな
 っています。他都市に比べたら多
 いと思います。

—— 多くの女性が、市の幹部職
 員や審議会委員になるためには、
 女性自身が力をつけることが前提

だと思います。今後、市民のつぶ
 やきを吸い上げ、いつも市民と心
 が向き合う市政の推進をお願いします。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子
 文責／田中 圀

24時間ヘルパー派遣

「高齢者安心都市」へ

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

生き生きと



集い楽しむ母親たち
地域文化は学校から

る。会員は、同校に通う児童のお母さん。曇り空を晴れやかにするよつなハーモニーだ。

まず、発声練習。グランドピアノを囲む会員は、久しぶりの練習にちよつと緊張がみ。腹筋を使つて、高いキーの時は目をパツと大きく開いて」とリーダーの楠本郁恵さん(41)。お得意の「オオシヤンゼリゼ」を歌うころには、みんなのテンションも上がってくる。歌うのが好きで、楽しくてたまらない会員の顔、かあ、カオ。とてもチャーミング。

一曲目は「小さな木の実」。泣いちゃうくらい悲しい歌詞だから大事に歌いましようとのアドバイスに、感情を移入する。「ふるぼけたの『ふ』をきちんと発音しないと客席の奥まで聞こえないわよ」とお披露目を意識した練習に熱がこもる。PTAのコンクールに出るのが目標だ。

会員には、「ここには仲間がいるから」との思いが強い。ストレスを発散する場にもなっている。みんなに悩みを相談できる場でもあり、練習後の反省会はいつも和気あいあい。

同クラブは昨年四月、できたば

かり。合唱部がなかったため、歌いたい人が集まり学校側に相談したところ、快く受け入れてくれた。同校は「地域の人たちが助け合い、明るく豊かな市民生活を」を基本に生涯学習の場として、校庭・体育館・特別教室などを開放している。今年、「施設開放運営委員会」も発足し、住民が学校と話し合いながら地域で活動を始めている。

峯村一江・同校教頭も「学校は地域の文化の中心であるべき。施設を開放するのは当然です。どんどん増えていって欲しい」と協力的。

笠原美和子さん(38)は「いろいろな収穫があるんです」と笑顔。「感動がよみがえります。声を大きく出して歌えるのがいい」と明るく話す池田本枝さん(45)。「はりきっている楠本さんは、いつも自分たちのことをすばらしいと感じるんです。自画自賛ですね」とちよつと照れる。

鈴木代表宅は多摩区東三田一の二の一七の三〇四。☎(932)65210。

「この地域に、お田さんのコーラスクラブを！」「ひとつにまとまった時は最高の気分」。そんな思いで歌うのは「三田小PTAコーラスクラブ」の十人＝鈴木京子代表(38)。

同クラブは、月一回の土曜日に三田小の音楽室で楽しく歌っている

心も口も開き、気分は最高

三田小PTAコーラスクラブ(多摩区)

文／小誌・井上徳子
カメラ／小誌・山本綾子

はりきってます グループ紹介

若壮年に「高齢体験」をかける

ワック WACC川崎アカデミー会(高津区)

高齢化社会が急速に進む中、高齢者にとって快適な暮らしや住み良い街とは何かを考えるために、お年寄りの体の感覚を理解してもらうと市民に「重り」をつけた高齢者体験を呼び掛けているのは「WACC(ワンダブル エージング クラブ)川崎アカデミー会」
 秋丸照雄代表(64)ら二十人。
 この日は、多摩区の日本女子大西生田生涯学習センターで「かわさき市民アカデミー」の高齢者福祉コースと居住福祉コースの演習のインストラクターを務めた。
 授業開始の一時前から入念な準備をしたインストラクターは、プログラムを説明した後、受講生を一班二、二人ずつ七班に分けて実習を始めた。受講生は、体験者、介護者、観察者の役を交代で行う。
 「さあ、装具をつけて標準的な八十歳の感覚を体験してみましょう」とこやかに話しかける会員。足首、膝、手首、肘関節、手指に

手際良く特殊なサポーターをつけ重りを入れたベストを着て約五キロの装着が完了。さらに視野を狭くするメガネをかけ、耳栓もする。

まず、お茶を入れて飲んでもらう。「思い通りにならなくて歯がゆい。お茶を飲むのも一苦労ね」
 「指先の感覚がないから茶碗を落としそう」と女性体験者が予想外の状況に戸惑う。
 次は階段を降りる。一段一段こわごとと降りる体験者。「手すりにつかまっけていても怖い」普段何気なくしている事がこんなに大変だと前向き姿勢。

つたとは……」と妙な面持ち。同会は要請に応じていつでもどこへでも出向き体験を実施する。同会の発足は二年前。「かわさき市民アカデミー」の文化祭で高齢者疑似体験を実施、これを社会貢献につなげたいと秋丸代表が仲間と呼びかけた。
 吉田君江さん(59)は「装着をしてあげる人から学ぶ事が多い。体力のあるうちは続けていきたい」と前向き姿勢。
 米倉國輔さん(72)は「元氣な前期高齢者が今までの経験や資力をもとにしてもっと活躍していくべきだと思う」と意気軒高。
 中村和代さん(45)は「半年前に入会して、母への接し方が以前と変わった。皆さんからいろいろな事を吸収出来て楽しい」と笑顔。秋丸代表は「他人を思いやる気持ちを育てるためにも学校で取り入れてほしい。体験を通して得られた意見や提案をどう社会に主張し生かして行くかが課題」と話す。連絡は高津区久本三の四の八の五一六。☎(811)5676の同代表。

重装具着けて歩き「大変さわかった」



文 / 小誌・菅原純子
 カメラ / 小誌・井上徳子

仲間と楽しむ

学び

活動する

住む年々

学習・文化情報

参加したい催しがある



催し

①映画上映アニメ②人形劇◆東芝科学館①は8月1日(金)10時と13時半。作品は鉄腕アトム▽アルプスの少女ハイジ▽ドカベン②は8月2日(土)13時半。3びきの子ブタ▽赤ずきん。あの会が、ぬいぐるみを着て上演。無料。定員は当日先着各250人。問い合わせは☎(549)2200の同館。川崎駅からバス「サイエンスショー」◆東芝科学館「8月11日(月)〜23日(土)(15日(金)〜17日(日)を除く)10時半、14時。不思議な現象を日替わりで体験。無料。8月25日(月)〜30日(土)は宇宙の話、身近な物を使った工作の「かながわサイエンスウィーク」。

「工作教室」写真①電動くわがた②UFOコマ③歩くぞ〜(象)◆東芝科学館①は7月22日(火)〜25日(金)、30日(水)31日(木)②は8月

市外局番のないものは044

4日(月)〜8日(金)③8月11日(月)〜14日(木)、18日(月)〜22日(金)。いずれも10時と13時半。対象は①小学低学年②同高学年③同中学年。教材費は②800円、他は千円。定員は30〜50人。申し込みは☎(549)2200の同館。



「シネマクラブ」ピータパン◆川崎マリエン」7月21日(祝)14時。日本語吹き替えの米国アニメ映画。無料。当日先着300人。問い合わせは☎(287)6009の川崎港振興協会。

①夏休みスポーツクラ

②同工作ひろば③ジュニアフェスティバル◆県立川崎青少年会館①は7月29日(火)〜8月1日(金)10時。ポール運動▽リレー▽とび箱。小学2・3年。保険料400円。20人(抽選)②は8月23日(土)14時。リサイクル材料でおもちゃ作り。小学生。定員先着20人③は8月24日(日)13時。人形劇やマジック②③無料。申し込みは☎(222)5282の同館で①のみ7月16日(水)申し込み締め切り。

「夏休み理科教室①自由研究②森は緑のダムなのか③押し葉標本④化石を探そう⑤大地を調べよう⑥多摩川を歩こう⑦日時計を作ろう⑧葉脈標本を作ろう⑨水を調べよう⑩星時計を作ろう」◆市青少年科学館①は7月21日(祝)10時②は24日(土)10時半③は25日(日)8月1日(金)13時半④は7月26日(土)10時半⑤は27日(日)10時半⑥は26日(土)18時⑦は29日(火)9時⑧29日13時半⑨は7月30日

(水)〜8月1日(金)9時⑩は7月31日(木)9時。無料。先着20〜40人。⑥は雨天中止。申し込みは①7月9日(水)②10日(木)③11日(金)④⑥12日(土)⑤13日(日)⑦⑧15日(火)⑨16日(水)⑩17日(木)9時から☎(922)4731の同館。

「雑草展」◆市緑化センター①8月6日(水)〜24日(日)9時半から。350品種を展示。問い合わせは☎(911)2177の同センター。

「たま・平和・人権尊重学級プレゼンテーション」映画会◆多摩市民館「8月16日(土)午後。アニメ「火垂るの墓」。無料。当日先着9百

人。問い合わせは☎(935)3333の同館。

「川崎合唱まつり」◆宮前市民館「7月19日(土)14時〜20日(日)12時。60団体が出演。無料。問い合わせ☎(222)8821の市文化財団。

「かわさき市美術展・作品募集」募集要項は7月下旬から各区役所・支所・出張所・市民館・図書館で配布。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

「ふれあい盆踊り大会」◆川崎授産学園「7月31日(木)17時半。雨天は8月1日(金)問い合わせ☎(954)5011の同園。

「怪獣映画祭」◆市市民ミュージアム「7月21日(祝)①ゴジラ②モスラ▽26日(土)①キングコング対ゴジラ②三大怪獣 地球最大の決戦▽27日(日)①地球防衛軍②フランケンシュタインの怪獣・サンダ対ガイラ▽8月2日(土)②大魔神怒る▽3日(日)①ガス人間第一号②マトango。上映は①13時半②16時。料

学習・文化情報

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

金は一般500円、小中学生300円、スカラチケット4千円。定員各270人。問い合わせは☎(754) 4500の同館。
 「フアンタステイックアート大賞」作品募集」空想キャラクターの作品募集。締め切りは7月31日(休)。問い合わせは☎03(3486)1227のGoFa内同大賞事務局。

10時から全5回。対象は小学生以上の子と親、子供のみの参加可。テキスト代300円。定員20組40人(抽選)②は8月2、16日の毎週土曜13時半、全3回。対象は子育て中の母と子。無料。定員30人(抽選)。申し込みは7月22日(火)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を記し〒211-4の1、同館。☎(733)9675。
 「拡大写本入門講習会◆市北部身体障害者福祉会館」9月12日、10月24日の毎週金曜13時半、全6回。教材費500円。定員30人(抽選)。申し込みは8月26日(火)までに往復はがきに同講習会希望、住所、氏名、年齢、電話番号を記し〒213高津区溝口172の3、同館。☎(811)6631。

「身につけよう命を救う応急手当」上級救命講習会◆麻生消防署」9月9日(火)9時。人工呼吸、心臓マッサージ、止血法、保温法の実践。無料。定員先着30人。昼食、上履き持参。受講者に修了証。申し込みは8月22日(金)までに☎(951)0119の同署・救急係。
 「これからの雇用・賃金制度◆県川崎労働センター」7月3、15日の毎週火・木曜18時半、全4回。雇用環境、能力主義の賃金などがテーマ。講師は江上寿美雄・週刊労働ニュース編集長ほか。無料。定員先着50人。申し込みは☎(722)0171の同センター。
 「①スポーツコーナリ利用講習会②日本赤十字社救急法講習会◆県川崎青少年会館」①は7月18日(金)、8月30日(土)18時半。ウエートトレーニングの基本と利用法。16歳以上。保険料千300円。定員先着15人②は7月26日(土)29日(火)8月2日(土)3日(日)。時間は29日は13時、他は9時。16歳以上。教材費約千円。定員先着30人。申し込みは②は7月1日(火)からで、いずれも☎(22)5282の同館。

「幼児教育・保育②環境教育③英検対策講座(準1級)◆玉川大学」①は7月23日(水)9時15分▽24日(木)9時半。遊びの大切さを学ぶ。受講料1万8千円。定員先着200人②は8月3日(日)4日(月)9時。環境をトータルで考える。受講料1万円。定員先着百人③は9月2日、11月18日の毎週火曜17時半。全12回。受講料2万円。定員先着30人。申し込みは☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。
 「教室①女性硬式テニス②社交ダンス◆川崎市民プラザ」①は9月8日、12月8日(祝日を除く)の毎週月曜10時、初級者コース▽13時、中級者コース。各全10回。定員各30人(抽選)②は9月6日、11月22日の毎週土曜9時、中級者コース▽10時55分、初級者コース。各全10回。定員男女各40人(抽選)。受講料は各1万2千円。申し込みは8月22日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望コースを記し〒213高津区新作1の19の1、同プラザ・各教室係。☎(888)3131。

ゆりがおか児童合唱団定期演奏会
 8月31日(日)午後4時30分開演 麻生文化センター
 (小田急線新百合ヶ丘駅下車)
 ♪曲 目♪シアターピース「子どもの遊び」(ビゼー・曲/中山知子・詩/杜こなて・編曲)
 ♪指揮♪山田榮子 ♪演出・振り付け♪石井かほる ♪ピアノ♪西山淳子
 ♪入場料♪全席自由 1,000円
 ♪問い合わせは ☎(951)0883の馬屋原か、☎(975)3241の西方
 後援/市生涯学習振興事業団、川崎市教委ほか

学習・文化情報

ききたい音楽がある

◆登戸ドレスメーカー学院
8月2日(土)9日(土)13時半から。ナツプザック、キュロットパンツが簡単にできるテクニク。受講料各千三百円。定員先着15人。布持参。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

〔指庄健康法無料講座◆多摩市民館〕7月23日〜9月3日(13日を除く)の毎週水曜13時半、全6回。定員24人(抽選)。申し込みは7月13日(日)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記し〒211中原区荏宿40、山口徳蔵さん☎(422)4882。

〔ヨガ入門◆サンライフ川崎〕9月12日〜11月7日の毎週金曜18時半。受講料3150円。定員先着30人。申し込みは8月14日(木)から☎(344)1777の同所。京急八丁磯駅下車。

〔①建物とくらし②芸能と農村舞台◆日本民家園〕
①は7月18日(金)13時半。
「大善寺」中世の見える風景」を三輪修三・同園職員が話す。無料、入園料必要

②は9月6〜27日の毎週土曜13時半、民俗芸能史について後藤淑・昭和女子大教授らが講演▽10月12日(日)に人形芝居上演。受講料3千500円。定員40人(抽選)。申し込みは①不要②8月26日(火)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922)2181。

〔講習会①樹木ウォッチング②植物観察の基礎③秋まき草花の育て方◆市緑化センター〕①は7月30日(水)無料②は8月5日(火)。教材費200円③は9月5日(金)13時半。教材費500円。定員各30人(抽選)。申し込みは①7月22日(火)②24日(木)③8月25日(月)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター。☎(911)2177。

〔こども音楽体験鑑賞教室◆川崎能楽堂〕7月19日(土)14時、能の話とワークショップ▽A・23日(水)B・26日(土)。仕舞、太鼓の体験。

AかBかを選ぶ▽8月3日(日)13時、能「安達原」鑑賞。小学生。受講料は3回で3千500円、能楽鑑賞のみは2千円。定員百人(抽選)。申し込みは7月16日(水)までに往復はがきに住所、氏名、電話番号、学校名、年齢と学年、受講経験の有無、AかBかを記し〒210川崎区駅前本町12の1、リバービル3階、市文化財団。☎(222)8821。

ステージ

〔川崎市民交響楽団定期演奏会◆エポックなからはら〕7月12日(土)18時半開演。シヨスタコーヴィッチ「交響曲第5番ニ短調 革命」▽シベリウス「交響詩 エン・サガ(伝説)ほか。指揮は井上喜惟。全自由席500円。問い合わせは☎(522)6941の中西さん。

〔高津区民祭前夜祭・ジャズコンサート◆糺ホール〕7月25日(金)18時半開演。出演は大坂昌彦&原朋直クインテット▽洗足学園短大ジャズコース学生バンド。全自由席2千500円。問い合わせは☎(813)4805のリバティープリント内・高津JAZZ協会事務局。会場は溝ノ口駅下車。

〔①スチューデント・ビッグバンド・ジャズサマーコンサート②すすき寄席③敬老記念公演▽青木光一ショー◆川崎市民プラザ〕①は8月31日(日)13時から。中・高校生が演奏。無料②は9月6日(土)18時開演。玉川カルテット▽桂米丸▽鈴々舎馬風が出演。全自由席で前売り千800円、当日2千円③は9月10日(水)14時開演。無料。定員は当日先着500人。問い合わせは☎(888)3131の同所。

〔①箏子まさえ(メゾンプラノ)ものろぐコンサート②高津区民祭くファミリーコンサート③グループ・ヴィーボコンサート〕歌とピアノのタベ◆糺ホール
①は7月5日(土)14時開演。メッキーマツサの歌▽別れの手紙ほか。ピアノは宮崎滋②は7月27日(日)14時半開演。高津市民オーケストラの室内楽▽郡真澄のアコ

初めてふれるパソコン講座 I

〈日 時〉 9月17日(水)〜19日(金)午前10時〜午後4時
 〈会 場〉 市教育文化会館学習室 (JR川崎駅から徒歩15分、バスあり)
 〈対 象〉 市内在住・在勤・在学の方 (定員30人、抽選)
 〈受講料〉 9,000円 (教材費別 1,500円)
 〈使用機種〉 NEC PC9801DX-U
 〈申し込み〉 8月22日(金)〜29日(金)の午前9時〜午後5時に ☎(233)6250の
 当事業団川崎分室へ電話で申し込む (月曜休み)

受講者募集

学習・文化情報

みたい絵がある



「画廊ランプ屋」7月10日(木)19日(土)、斉藤祐一吹きガラス展。ハケ岳の麓の

ギャラリー

ーデイオン▽達美鶴の琴とバイオリン▽永塚節のギター▽アンサンブルエコーの室内楽Ⅱ写真③は8月27日(水)19時開演。ベッリーニ「二重唱『平和の天使』」▽山田耕筈「この道」他。
①②無料③千五百円。問い合わせは①☎(857)1539の笹子②☎(812)6090の同ホール③☎(752)6159の谷辺。会場は溝ノ口駅下車。

工房で制作した器Ⅱ写真Ⅱ、オブジェ、ランプ約150点。☎(945)4416。稲田堤駅下車。

「市民ミュージアム」7月19日(土)8月31日(日)、怪獣ミュージアム。パイオニア・開田裕治が描いた「凍れる夜(帰ってきたウルトラマン)より」Ⅱ写真Ⅱ「ゴジラ・イン・ゲーム(『平成ゴジラシリーズ』より)の怪獣画150点。観覧料は一般700円、小学生300円。怪獣、超人の映画上映あり(催し)欄参照)▽8月24日(日)まで、漫画家・畑中純の挑戦Ⅱ豊か



「ギャラリー幸」7月4日(金)9日(水)、「石渡団」水彩展。バラ、ユリの花の作品▽11日(金)16日(水)「パリ祭」展。油絵や水彩画など風景画▽18日(金)30日(水)、常設展。童謡、唱歌を題材

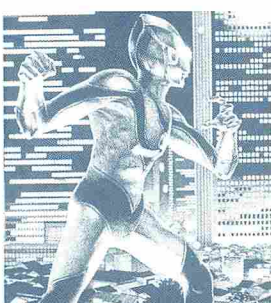


「中村正義の美術館」7月13日(日)まで、中村正義展「後期・幻視、幻想の時代」結核、直腸がんと闘い生死の狭間の中で制作した紙本着彩「顔」Ⅱ写真Ⅱなど40点。一般500円、学生300

なる大地と水と人間と。「宮沢賢治・銀河へ」など、日本風土を色濃く反映した作風と独自の表現の作品50点。観覧料は一般300円、小学生100円。☎(754)4500。

にした叙情的作品▽8月1日(金)13日(水)、海の展。オホーツク海に生息するクリオネ貝、漁港などの作品30点。☎(555)8181。川崎駅西口下車。「スナック喫茶」7月

円、小中学生200円▽7月20日(日)27日(日)、「みるみるかくかく特別展」。正義の絵からクイズを楽しみ、絵を描く。対象は小中学生。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。



心画展 瀬崎竜彦・心のメッセージ

瀬崎竜彦さん(21)の書は「伸びやかな筆の運びと美しい墨の曲線は、見る人の気持ちをすがすがしくさせる」と高い評価を得ています。知的障害者の竜彦さんの「翔」「夢」「不言花」など作品60点が「心の響き」として鑑賞者に感動を与えることでしょう(入場無料)。

■日時——7月23日(水)~27日(日)午前10時~午後6時半(最終日5時)

■会場——アートガーデンかわさき(JR川崎駅東口下車、徒歩2分)

★問い合わせ——☎(866)4855の瀬崎

竜彦さんは、1995年10月号の小誌「いまを話す」のゲストです

5日(土)〜26日(土)、幸油絵三人展▽26日(土)〜8月16日(土)佐藤繁納写真展▽同日(土)30日(土)、西村七恵水彩展。問い合わせは☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「IBM市民ギャラリー」

7月3日(木)〜8月5日(火)、^{すみか}鷺見和紀郎展。極小サイズの現代彫刻。☎(233)3400。川崎駅東口下車。

読者の声



反響を大切に頑張る

「みのり会」代表

高津区、高橋三和子さん
4月号の「グループ紹介」

に私たちの会を紹介して下さいましたこと会員一同、感謝しています。まわりの方々より「ステージ・アツプ」を読まれての反響が「みのり会」に伝わり、この貴き体験を大切に致し、ますます頑張る所存でございます。今後ともご指導下さいますようお願いいたします。

出会いの喜び求めて

前当事業団職員

岡本末範さん

「会者定離」という言葉

がありますが、会うものは必ず定めとしての別れがあるかと教えています。この職場で、5年間という流れの中で「会者定離」の時を迎えました。生涯学習振興の場所とあつて、アーチスト・キャリアリストといつた才能豊かな人々に囲まれ、楽しい日々を送ることができました。知らない者同士

が知り合い、皆さんの生き方に刺激を受け、より豊かな経験を積むことができてきました。別れのつらさより、出会えた喜びのほうが深いという気持ちです。福沢諭吉は「世の人間にとつて一番不幸なことは、することがなにもないこと」と教えています。これから出会いの喜びを求めて第一、第二の人生を精一杯生きていきたいと考えています。



秀吉の朝鮮侵略は

誇大妄想からか?

5月中旬の4日間、宮前

市民館で「第6回宮前文化センターサークル祭」があ

り、同館で生き生きと活動しているグループが日ごろの「榮習」の成果を披露。「韓国・朝鮮を知る会」(佐藤恵子代表)は公開講座「秀吉の朝鮮侵略をめぐつて」を開き、中学生を含む30人の市民が参加した。

会員の法月重雄さん、山田良子さん、村上啓子さんが「世界中に一つのレポート」を発表した。秀吉が朝鮮侵略したのは領土拡張のためとの解釈が多数だが、法月さんは5つの理由を挙げて「その中で『秀吉の誇大妄想説』が有力と考える」とし「秀吉が天下統一をする前、信長が朝鮮・明との貿易をするために唐攻めを考えていた。秀吉は、天下人になつたが教養が低く、親方様の信長から唐攻めの話を聞かされたことが脳裏から離れず、単純に朝鮮出兵をした」と話した。参加者から「被害者側は、後の代まで話し続けるが、加害者側は忘れて…と思うのが心理」学習の成果を本にまとめて」などの意見があつた。

編集後記

南仏カンヌで五月に開かれたカンヌ国際映画祭で、今村昌平監督(70)の「うなぎ」がグランドプリを受賞した▼また、女性の河瀬直美監督(27)の「萌の朱雀」が新人監督賞に選ばれた▼二つの作品とも、日本国内では話題にすら上らず受賞前、「うなぎ」の上映を決めていた松竹系映画館は約半数、「萌の朱雀」は全国で数館という▼テレビ局や出版社などが製作する映画は「これでもか」とばかりPRするため、駄作でもヒットする▼しかし、そのことが「オオカミ少年」のように、ますます映画離れを引き起こす▼今村監督は、小田急線新百合ヶ丘駅前にある「日本映画学校」の理事長で、同学校は地域社会にも貢献している▼同校を軸に、その学生や市民がボランティアとして企画・運営にあたる「しんゆり映画祭」(十月八日から十二日)はその一つ

▼この映画祭には、市も応援しているが、高橋市長のいう「市民の内発的發展」にまかせているから、実行委メンバーが生き生きとしている▼「うなぎ」の題名で思い出したが、川崎の市域はウナギの寝床のように細く、これも川崎のイメージやまとまりの悪さを象徴しているようにいう人がいる▼私がそれに反発して「川崎は昇り竜のような地形をしている」と言ったら、市民からも嘲笑された苦い思い出がある▼だが、今村監督が「うなぎ」を撮る端緒となつたのは「太平洋をフィリピン近くまで泳いで行き、産卵・受精するウナギ。たいていは、そこで息絶えるが、ふ化した稚魚が日本の川に戻ってくる時、一緒に帰ってくるオスとメスもいる」(五月二十日付け毎日新聞「ひと」)神秘性に魅せられたからだ▼川崎が「ウナギの寝床」でなく「ウナギのロマンある人間都市」になるには市民と行政がパートナーシップで結ばれることだ(田)。

発行 (財)川崎市生涯学習振興事業団 〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
電話 044(952)5000代 FAX 044(952)1350 編集人・田中 園